フィールド（現場）からの風 ⑭94

宮田守男

今日は、3×9（さくら）＝27と七十二候の「桜始開（さくらはじめてひらく）」の時期が重なることから「さくらの日」だ。全国に五十八本ある標本木を各地の気象台が観測し、標本木のつぼみのうち5、6輪咲くと開花、8割が咲けば満開との情報が出されるが既に全国各地から桜開花の便りが続いている。春爛漫は誰もが待ち焦がれる季節でもある。

国土交通省が2026年1月1日時点の公示価格を発表し信濃毎日新聞の1面に白馬「北城」が住宅地の上昇率全国トップと大きく報道。また商業地も物件の割安さもあって県内でも上昇率トップだった。建築事業も活発で、冬期間も工事箇所の現場を多く見かけた。全国各地で展開される開発で均一な風景が増えている。再開発で地域の中心部に中高層ビルが立ち並び、どこにいっても同じチェーン店が並ぶ「ファースト化する風景」が進行している。開発が続く私達地域の多様性や個性が失われないか心配だ。生活を営む場所から山麓美を堪能できる好条件にある地域固有の風景を失っては地域の魅力低下につながり、一瞬にしてつまらないと感じられてしまうだろう。

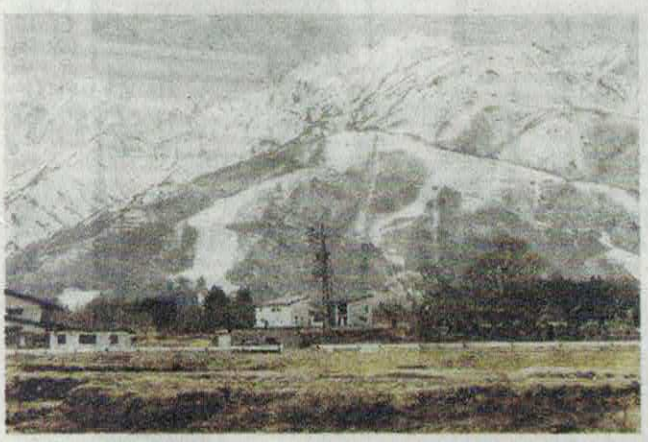
地域固有の風景を失うな

改めて開発物件ごとに判断するのではなく、地域の多様性や個性を尊重し合える地域づくりの視点を大切にしてほしいと願うばかりだ。

3月初旬に山形県立東桜学館高校の生徒4名が蔵王の樹氷と温暖化の関係を研究発表した視点に驚く。温暖化による樹氷消滅の指摘はあったが、蔵王の雪に強いオオシラビソ自体が育たなくなり、木に氷の塊が付いてできる「アイスモンスター」は、今世紀末には見られなくなる可能性が高いと結論付けた事だ。オオシラビソ自体の存続が危ういという事を数値から証明し、広く県民の意識に山形の宝である樹氷を少しでも長く維持して行こうと、県民に保存活動に取り組んでとの呼び掛けは価値ある研究だ。

私達地域にも、環境に密接した題材はあるに違いない事を意識して、研究する機運が高まってほしいと思っている。

中東地域の混乱により原油価格に一喜一憂される情報が発信されている。石油は国際商品であり「いくらで作ったか」よりも「市場でいくらで売れるか」で価格が決まってしまう。すぐ上がるが中々下がらない価格に対する仕組みに着目した取り組みを期待する毎日だ。（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



3月下旬でも八方リーゼンコースに雪面が広がる。新ゴンドラ架設による名木山までの滑走可能な取組に期待しかない